

春の旅

新野の
祐子

流水や炯々^{けいけい}と星散らばりぬ

迷い子の黄鶺^{きびたき}を抱く霞かな

耕^{たがやし}や土竜はよき字よき響き

たましいの零れぬようにゆく春野

永き日や猫腹見せて吾を迎う

ハチクマよ一万キロの春の旅

お地蔵の髪伸びてくる穀雨かな

淡々と記す日常荷風の忌

月暈^{つきがき}の地に降りしごと葱坊主

ネグロスの汐風まろし鷄合^{とりあわせ}